

空海と密教の世界(仮)

心と体を磨き、満たす

——密蔵は深玄にして翰墨に載せ難し。更に図画を仮りて悟らざるに開示す「御請来目録」

密教は「五感」の教えであるといわれる。念仏や坐禅など一つの行を選択するのではなく、文字や曼荼羅などの視覚、あるいは儀礼や音自体にも意味を見出し、あらゆる側面から身体を磨いて、精神を変革させようとするからである。

密教はインド密教からチベット密教へ、中国密教から日本密教へと伝わっていった。

日本においてその先達となったのが弘法大師空海である。2023年は空海生誕1250年であった。

そして2024年は空海ゆかりの密教寺院である京都神護寺の創建1200年である。

今回、東京国立博物館で開催される特別展「神護寺～空海と真言密教のはじまり」を端緒として、

これまで少誌で取材してきた高野山や四国遍路で知り得た空海像をさらに推し進めるために、

密教とは何かという点を、歴史とともにさらに知り、心と体を磨く、その真髄を学びたい。

<巻頭> 特別展「神護寺～空海と真言密教のはじまり」東京国立博物館 (2024年7月17日(水)～9月8日)

<巻頭言>密教史における空海～言霊の力～ 文・正木晃(宗教学者)

<大特集>

・弘法大師霊場 神護寺

愛宕山山系、高尾山の中腹に建つ山岳寺院。開基は和気清麻呂。

もともとは高尾山寺といったが、唐より帰国した空海が住し、灌頂(密教の儀式)を行っている。

そのゆかりから和気氏の氏寺神願寺と合併して、神護国祚真言寺(神護寺)と改められた。

その日本初の真言道場としての歴史と寺宝をめぐる。

・教王護国寺(東寺)

例:両部不二とは何か(両界曼荼羅図)、講堂の立体曼荼羅、不動明王信仰と日本～東寺の立体曼荼羅～

最大の密教儀礼「後七日御修法(ごしちにちのみしゅほう)」など

・醍醐寺(真言宗醍醐派総本山)

空海の孫弟子・聖宝(理源大師)が開山。修験者の霊場、応仁の乱による荒廃、秀吉による復興まで

・泉涌寺(真言宗泉涌寺派)

空海創建との伝承もある御寺。

塔頭の今熊野観音寺および来迎院(弘法大師独鈷水)は空海開山と伝わる。

・総本山智積院(真言宗智山派)

もとは大伝法院(現・根来寺)の塔頭だったものを南北朝時代に憲坊長盛が建立し、

のち家康の時代に独立

・圓城寺(三井寺・天台寺門宗)

円珍を中興の祖とする天台寺門宗総本山。円仁、円珍によって密教化した天台宗。

お寺の由緒とともに。

<コラム>

初代市川團十郎と不動明王、真言とは(サンスクリット語)、マントラ、言霊と日本

日本仏教とチベット仏教の違い、十住心と『秘蔵宝鑰』『秘密曼荼羅十住心論』など

※特集内容は変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

スペース	掲載料金	サイズ
表4	1,800,000 (税込1,980,000)	269×200 (天地mm×左右mm)
表2(1P)	1,500,000 (税込1,650,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
表3	1,400,000 (税込1,540,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
目次対向	1,300,000 (税込1,430,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
4C1P	1,100,000 (税込1,210,000)	285×210 (天地mm×左右mm)

- 発売日 : 2024年5月24日(金)
- 発行形態 : 中綴じ/右開き
- 判型 : 128Pフルカラー、A4変型
- 定価 : 980円(税込)
- 発行発売 : 株式会社三栄
- オーダー : 2024年5月7日(火)
- 校了 : 2024年5月13日(月)

全国書店及びコンビニで発売

【お問合せ】株式会社三栄 第二営業企画局 Mail : koukoku@san-ei-corp.co.jp

～この企画に関するより詳しい内容・不明点は各担当者にご連絡下さい。～

